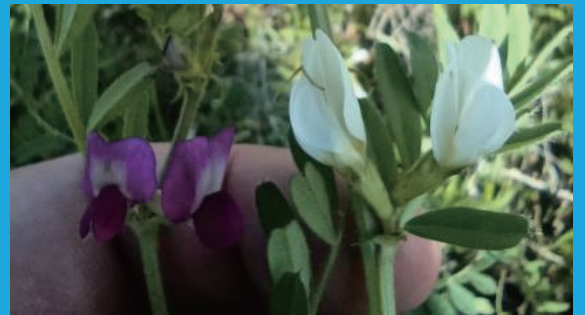


子どもが喜ぶ 体験学習を 探究しよう



R6 日教弘本部奨励金 研究助成
「生活科で深い学びを涵養する
『自然に働きかける体験学習』の
方法論の構築と活用」報告書

兵庫教育大学 吉國 秀人

“植物” との関わりを活かした学び

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編 とのつながりは・・・



●「繰り返し自然事象と関わったり，試行錯誤して何度も挑戦することは
気付きの質を高めることになるとともに，事象を注意深く見つめたり予想を
確かめたりするなどの理科の見方・考え方の基礎を養うことにもつながる」
（p. 95）

●「ミニトマトもナスもピーマンもキュウリも，どれも花が咲いたところに
実がなります。別の野菜もみんな同じです」「でも，つるが伸びるのは
キュウリだけです」と植物の斉一性や多様性に気付いていった」（p. 95）

●「学習環境の構成などに心掛けることで，児童が活動や体験で得た情報が
見通しに役立つという自覚ができるようにしていく必要がある」（p. 96）

提言 野の「はしりもの・かわりだね」を見つけ，発表しよう

ここがポイント！

- | | |
|---|--|
| 1 | 朝の短時間に，「子どもが持ってきた
（見てきた）めずらしいもの（はしりもの・かわりだね）」について，話し合う。 |
| 2 | 「はしりもの」は，まだ旬になってなく，
少数しか野に出ていないもの。
「仙台でいえば三月のタンポポ」。 |
| 3 | 「かわりだね」は，「生活経験から見て
変わっていればよい。真っ白なアザミの
花」。 |
| 4 | 「話し合いである。記録・スケッチをさせないこと」。 |

出典：
高橋金三郎（1973）コメント 極地方式研究会編
『極地方式の授業71』，pp. 65－69。

さらに，深めたい方へ・・・

「安河内功氏は、極地方式研究会の会員として
長きにわたり「はしりもの・かわりだね」の
授業実践を報告し続けた元小学校教員である。
安河内（2002）は、・・・（略）・・・
この活動は、子ども達が「自分から興味を広げ
る」ものであり，「自分達の生活空間を知って
いく活動」と位置づけている。さらに，「自分
達の周りに，知らないことがたくさんあって，
それを知ることによって，生活が豊かにのです
（＊原文ママ）。周りの自然変化に目を向けて
行こうとする活動です」（p. 20）と，「はしり
もの・かわりだね」が教室外の児童らの生活に
もたらす波及効果へも言及している」。

出典：
安河内功（2002）はしりもの・かわりだね
極地方式研究会『デポ』，No115，pp. 17－23。

吉國秀人（2024）《研究ノート》野の動植物を図
鑑で検索し発表し合う協働活動で見られた低
学年児童の推論に関する考察 神戸芸術工科
大学 教職課程年報2023，59-63。

実践の様子

大学院のゼミで「はしりもの・かわりだね」に挑戦中！

冬

23年12月19日



サクラが 冬に咲いたよ

春

24年4月20日



アケビが 小さい花をつけてた

夏

24年8月15日



マツヨイグサが 夜にひっそりと

春

25年3月25日



モクレンのつぼみが ほころんだ

“動物” との関わりを活かした学び

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編 とのつながりは・・・



●動植物が育つ中でどのように変化し成長していくのか、どのような環境で育っていくのかについて興味や関心をもって、動植物に心を寄せ、よりよい成長を願って行為することである。・・・（中略）・・・動物本来の生育環境や土、水、日照、肥料といった植物の生育条件に目を向けるようになる。「捕まえた場所に生えていた草も一緒に入れてあげよう」・・・などとそれらの育つ場所、変化や成長の様子に関心を持ち、自ら働きかけるようになる。（p.44）

●生活科では振り返り表現する活動として、言葉などにより表現する活動が位置付けられる。活動や体験したことを言葉などによって振り返ること、無自覚だった気づきが自分の中で明確になったり、それぞれの気づきを共有し関連付けたりすることが可能になるからである。（p.97）

提言 動物の体の形と暮らしの秘密を 教科横断的に学ぼう

ここがポイント！

- | | |
|---|---|
| 1 | 動物園や博物館が所有している動物標本を、学習教材として活用しよう。教材は寿命を全うし標本として貸出してもらったものだと児童に予め伝え、大切に扱うよう留意する。 |
| 2 | 子ども達自身の頭の骨とのつながりをつけながら、他の哺乳動物の頭の骨の形の特徴を学ぼう。 |
| 3 | 小学1年国語「どうぶつの赤ちゃん」で学んだ内容とつながりをつけながら、教科横断的に学ぶ工夫を取り入れよう。 |
| 4 | 肉食動物と草食動物の頭骨の比較を行い、暮らしに応じた形の違いに注目して学ぶ。 |

出典：

吉國秀人(2023) 小学校1年 頭骨標本を用いた授業「動物の体の形と暮らしの秘密」理科教室2月号(818), 40-46.

さらに、深めたい方へ・・・

「野生動物の狩り・食事・休憩などのくらしぶりを示す写真パネルや発泡スチロールの目を頭骨標本に入れて動物の視野を確かめる活動なども取り入れました。

これらの視覚教材や体験活動は、単にある動物が何を食べているかを示す情報に留まらないようにしたいと考えました。頭骨標本を用いて「体のつくり（歯の形や目の位置）」と「食性（肉・草を食べる）」の関係性を教授する際に、動物の生活実態である「食う食われる関係」との相互関連性を重視しようと考えたのです。そこで、ある動物が捕食するため（補足されないため）にどのような生活を送っているかという「食う食われる関係を視覚的に明示したり、体験できるような活動として位置づけるよう工夫しました。」（p.18）

出典：

吉國秀人・小倉誠（2006）【実践報告】頭骨標本と視覚教材を使った授業（小1）「わかる授業の創造」Vol.8(1), 17-36.

実践の様子

22年3月小学校にて

授業プラン



問1) 自分の頭や顔を触ってみよう！骨の部分はあるかな。

問2) 動物の頭の骨を、比べてみましょう。

問3) ライオンの頭の骨を詳しく見よう！

問4) シマウマの頭の骨を詳しく見よう！

問5) 動物の骨を見て、予想しよう！

問6) ライオンやシマウマとは、違う骨を調べよう。

肉食と草食で 動物の体の形に どんな違いがある？

シマウマの頭骨標本



広島市 安佐動物公園 所蔵

動物標本教材の貸出について

広島市
安佐動物公園
<http://www.asazoo.jp/>

シマウマ、アヌビスヒヒの頭骨標本。
来園または郵送で貸出可。
要事前相談 & 申し込み。

大阪市立
自然史博物館
<https://omnh.jp/>

ニホンジカ、アライグマの頭骨標本。
来館または郵送で貸出可。
要事前相談 & 申し込み。

千葉市
動物公園
<https://www.city.chiba.jp/zoo/index.html>

ライオンの頭骨標本（レプリカ）。
来園のみ貸出可。
要事前相談 & 申し込み。

体験学習の意義とは？

小学校学習指導要領（平成29年告示）解説 生活編 とのつながりは・・・



●生活科においては、児童が対象に直接働きかける具体的な活動や体験を通して、対象から様々な情報を取り出し、表現したいという意欲が生まれるようにすることが大切である。したがって、具体的な活動や体験の充実を促すとともに、言葉などによる振り返りや伝え合いの場を適切に設定することも大切である。（p.10）

●生活科は、具体的な活動や体験を通して学ぶことを基本としているところに特色がある。具体的な活動や体験は、単なる手段や方法ではなく、目標であり、内容でもある。つまり、生活科で育みたい児童の姿を、どのような対象と関わりながら、どのような活動を行うことによって育てていくかが重要であり、そのこと自体が内容となって構成されている。（p.24）

提言 言語活動とともに **全身活動**の形成を 目標にしよう！

深めたい方へ（1）

「生活において、直接的・最終的な問題解決は、常に全身での環境からの刺激の受け取りと、全身での環境への働きかけによってもたらされます。言語刺激の受取や言語活動での働きかけ（かたりかけ）は、実は全体的活動の部分的代りにすぎません。」（p.119）

「幼ければ幼いほど、そしてそれと同時に、おとなでも知識がまだ少ない、つまり言える度合いが少ない、言語活動レベルでの解決の範囲が狭い場合ほど、行為のレベルでの学習に比して、記号のレベルでの学習に困難であり、行為のレベルでの学習、ないしは行為のレベルでも多用したり、そのレベルに近づけたりする学習の先行が極めて有効なものとなるようです。」（p.120）

出典：
細谷純（1975）連載⑥授業に生かす心理学「知能」を高める記号化と行為 小一教育技術11月号，118-121。

深めたい方へ（2）

「現在私たちが栽培・飼育している品種で主要なものは、すべて私たちの歴史以前の祖先がすべて「かわりだね」を選抜、淘汰して作り出したものである。・・・（略）・・・白いアザミに関心を持つ人間であってこそ、今日の多種多様の園芸花をつくり出せたのである。・・・（略）・・・テストで子どもの苦手なものは、「サクラはいつさくか、ツツジはいつさくか」の類である。そのくせ、秋になって咲くサクラやツツジの花をめざとく見つけるのは子どもであっておとなではない。生活経験の中でぼんやりと得られていた一般概念が、シャープな特殊の事実と対面することによって、はじめて子ども自身にも明白な概念となるのである。」（p.68）

出典：
高橋金三郎（1973）コメント 極地方式研究会編『極地方式の授業71』，pp.65-69。